

Thomson StreetEventsSM



コンファレンス・コール議事録

GE 2005 年度第 4 四半期収益コンファレンス・コール

開催日時：2006 年 1 月 20 日午前 8 時 30 分（東部標準時）

会社側出席**ビル・ケアリー**

GE - コーポレート・インベスター・コミュニケーションズ、バイス・プレジデント

ジェフ・イメルト

GE - 会長兼CEO

キース・シェリン

GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

コンファレンス・コール出席者**ジェフ・スプレグ氏**

スミス・バーニー・シティグループ - アナリスト

ニコル・パレント氏

クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

デイブ・ブルースティン氏

UBS - アナリスト

ディー・ドレー氏

ゴールドマン・サックス - アナリスト

ロバート・マッカーシー氏

CIBC ワールド・マーケッツ - アナリスト

ピーター・ネスヴォルド氏

ベア・スターンズ - アナリスト

アン・ドゥイグナン氏

ベア・スターンズ - アナリスト

ジョン・インチ氏

メリル・リンチ - アナリスト

ドン・マクドゥーガル氏

バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

スコット・デーヴィス氏

モーガン・スタンレー - アナリスト

トニー・ボーズ氏

AG エドワーズ - アナリスト

プレゼンテーション**オペレータ**

GE 第4四半期収益コンファレンス・コールにご参加いただき、ありがとうございます。現時点では、ご参加いただいた皆様は聞き取りのみ可能となっております。私は、本日コンファレンス・コーディネータを務めさせていただくレイチェルと申します。（オペレータからの説明）なお、本会議の内容は録音されます。引き続き、本日のコンファレンス・コールの主催者であり、インベスター・コミュニケーションズのバイス・プレジデントであるビル・ケアリー氏に進行をお願いします。では、よろしくお願いいたします。

ビル・ケアリー - GE - コーポレート・インベスター・コミュニケーションズ、バイスプレ・プレジデント

皆様、本日はご参加いただき、ありがとうございます。本日のコンファレンス・コールは、ジョアンナと私とで進行させていただきます。第4四半期および2005年度通年の業績を検討したいと思います。本会議はウェブ・キャストを使用しております。本日、ご検討いただく資料をご覧になるには、ブラウザ画面の更新が必要です。

本日の朝6時30分前後にリリースいたしましたプレスリリースがお手元にご覧いただけますでしょうか。先ほど申しましたように、本日のコンファレンス・コールに使用するすべてのスライドと補足のデータが GE.com/investor ウェブサイトに用意されております。スライドが表示されていない場合は、このサイトに移動して、ブラウザ画面を更新してください。これで、ご覧いただけるはずです。もちろん、ダウンロードや印刷もできます。どうぞ、会議の進行に合わせてご覧になってください。

このプレゼンテーションには、いつものとおり、将来の予測や、弊社の最良の展望、現時点での事業に基づいた内容が含まれております。もちろん、情勢は変わることもありますし、情勢が変われば、見方も変わるかもしれません。どうぞその点をお含みおきください。

本日のコンファレンス・コールでは、2005年度の第4四半期と通年の業績を検討してまいります。また、2006年度の第1四半期の見通しと、時間が許せば、皆様方からのご質問をコンファレンス・コールの最後に受けさせていただきます。もちろん、いつものとおり、弊社の会長兼CEOのジェフ・インメルトとシニア・バイス・プレジデント兼CFOのキース・シェリングからご説明させていただきます。では、ジェフ、よろしくお願いいたします。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ありがとう、ビル。皆様、おはようございます。概要のページをご覧ください。年度が終わろうとしている中、依然として良好なファンダメンタルと堅調な勢いが見られます。通年の受注は10%増加し、全体にわたって安定した成長となっています。案件の受注残高は240億ドルです。サービスについては良好な四半期であり、年度であったため、受注残高は引き続き膨らんでいます。資金調達高は17%伸び、ポートフォリオの品質も堅調さを維持しています。

成長という点をとってみると、内部成長は通年、四半期とも8%の上昇でした。継続的事業活動からの収益は、報告ベースで12%アップの183億ドルでした。全体にわたって、きわめて堅調です。

キャッシュは216億ドルと特にすばらしく、インダストリアル・CFOAについても、ファイナンシャル・サービスの配当についてもきわめて堅調です。そのため、年間で50億ドルの自社株買い戻しに弾みが付きました。

弊社のイニシアティブは引き続きうまく機能しており、会計年度の終了にあたって、しっかりした勢いを保っています。ジェンワースの観点からも、インシュアランス・ソリューションズ売却の発表も、保険ポートフォリオの再編という重大な局面を完了させたことは重大であったと考えております。予想どおり、継続的事業活動による1.72ドルは、通年で10%のアップでした。

世界の状況については、弊社の考えをお話するのに少々時間がかかると存じます。米国市場は依然、堅調であり、期待どおりです。継続的なインフレ傾向により、弊社のインダストリアル部門やプラスチック部門のような事業に影響を及ぼす価格インフレ対取引高のトレードオフに、弊社は対処し続けています。

ファイナンシャル・サービスの取引高は好調であり、資産の質も良好です。また、流動資産についてはプラス面とマイナス面とがあり、資産をめぐって競合が起きています。

アジアは引き続き非常に堅調であり、日本は改善しつつあります。中国は会社全体にわたって、きわめて堅調です。2005年度は50億ドルを超えました。欧州は、短期のみを見れば、特にプラスチック部門において軟調気味の取引高でしたが、ヘルスケアおよびインフラストラクチャー・プロジェクトの一部に関しては、かなり堅調です。

ファイナンシャル・サービスについては、さまざまでした。東欧州はきわめて堅調で、一部の中進諸国におけるファイナンシャル・サービスの成長速度は鈍化していますが、資産品質は安定しています。発展途上市場は、全体的に好調を維持しています。

第4四半期のインフラストラクチャーも、堅調な伸びを示しています。ヘルスケアの伸びも堅調です。インダストリアル・利幅率も順調に拡大しています。プラスチック部門の取引高は、特に欧州で低調でした。ファイナンシャル・サービス部門は、ここでも、コンシューマー、コマーシャルともに堅調です。ROEは良好で、通貨によっては若干の影響がありました。また、この四半期では、資産売却が減少しました。

売上の観点から検討すると、FAS133による影響および昨年度の第4四半期のジェンバクトの売却を除外すれば、5%拡大しています。FXは約1ポイントで、資産売却とその他の要素のいくつかを考慮すると、第4四半期の内部成長は8%でした。

次のページの主要獲得顧客をご覧ください。獲得顧客は、さまざまな事業に幅広く分散しています。インフラストラクチャーについては、実に世界的傾向が見られます。年度終了時点で、複数の航空会社の獲得に成功しました。中国では、鉄道会社の獲得が好調で、すばらしい勢いがあります。

コア DI、診断用医薬品、IT のいずれについても、弊社の製品ラインの拡大傾向をご覧になれば、ヘルスケア事業の現状をお分かりいただけると思います。コマーシャル・ファイナンスは、ほとんどの資産区分において広範な成長を遂げています。コンシューマー・ファイナンスは、特にグローバルベースで堅調です。

インダストリアル部門は引き続き、ハイエンド市場のシェアおよび GE Profile 製品ラインのようなハイエンド製品に重きを置いています。NBC は依然、コンテンツに力を入れています。コメディが順調で、また、現在いくつかの優れた映画を放映しています。そのため、得意客も獲得しています。

成長については、通年で 8% 程度の内部成長と話していましたが、第 4 四半期についても同程度です。収益面での見通しはかなり良くなっています。製品サービスの売上は通年で 9%、第 4 四半期は二桁でした。成長プラットフォームの売上は 20% 上昇し、内部成長は 8% でした。

世界全体の売上は引き続き堅調です。事実、世界のどの地域においても、世界的売上は好調です。イマジネーション・ブレイクスルーズは成長の積み増しに注力し続けています。ここで、2つの例をあげます。

エンターテインメント・ファイナンシャル関連は、1 億ドルの資産増でした。ポータブル超音波は、2004 年度に 18 倍の伸びを示しました。また、カタールにおける国と企業を結び取り組みでは、順調な成長を促しています。ここでも、イニシアティブと勢いは 2005 年度も、そして 2006 年度に向けても堅調です。以上で私の説明は終わり、キースに変わります。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ありがとう、ジェフ。それでは、受注高から始めましょう。通年の受注高は 765 億ドルで、10% の増加でした。いつもお話している明細がここにあります。左側が主な案件です。これらの受注は四半期ベースで波があるのがお分かりになると思います。通年で 19% 増加している点にご注目ください。

ただし、第 4 四半期においても、航空部門については 98% アップと、すばらしい四半期でした。受注高に波がある例として、エネルギーは 5% アップと掲載されていますが、第 4 四半期に前年度分を調整し、生産税額控除が通って、大型の風力の受注があったために、それを調整したところ、エネルギーの受注高は 95% の増加になりました。その他の製品ラインにおいても、全般的に実に快調な四半期でした。

オイルおよびガスは昨年、大型 LNG の受注がありましたが、通年は 16% の増加に留まりました。トランスポートーションについては、昨年、複数年にまたがる納品受注があったため、トランスポートーションの受注残高は 23% アップしています。この受注残高には 1,800 台を超える機関車が含まれており、生産には 2 年ほどかかります。これらのほとんどが EVO 機関車です。

したがって、4 期移動平均が全体で 690 万ドルで、第 4 四半期は 70 億ドル以上、ほぼ 80 億ドルとなりました。皆さんは、この移動平均の継続的拡大を目にすることになると思います。

サービスは中央に示されています。堅調を保っています。サービス全体では、12% の上昇。通年では 11% でした。航空機の予備部品が堅調を維持しています。ヘルスケアの受注残高は増加しています。エネルギーでは、原子力、航空とも、複数四半期にわたってサービスが好調で、通年で 16% の上昇でした。

また、第 4 四半期のトランスポートーション、オイルおよびガスの大型受注は、サービス受注を含み、一部は昨年度のものでしたが、全体で 12% のアップになっています。業績はすばらしく、高い利益幅の伸びを引き続き後押ししています。

右側はフロー受注額です。一桁の伸びを維持しています。これは、最初の 3 四半期と同じです。ここでも、第 4 四半期は価格が堅調でした。インダストリアルシステムも好調でした。セキュリティはきわめて好調です。

プラスチックは、通年でみるとダウンしています。弊社は価格と取引高とのトレードオフに取り組んでいました。米国における弊社の受注率は良好で、5% のアップ。アジアでは 11% のアップでした。欧州においては一部、取引高のトレードオフがありました。これについては、後ほど、プラスチックのページでご説明します。全体の合計フローは 3% の増加で、年初から 3 四半期までに確認していたことと一致しています。

この四半期の受注高は215億ドルで、6%の増加です。会社全体として、手堅い業績といえます。

次のページはポートフォリオの品質です。ポートフォリオは引き続き、きわめて良好な状態となっています。左側には、支払期日を31日以上経過した延滞が示されています。顧客による延滞は、第3四半期の5.23%から、第4四半期では5.08%に減少しました。英国の保証市場においては安定感が見られるようになりました。これは、すばらしいニュースです。コマーシャルの延滞レベルを見ると、全体として、きわめて低いレベルです。

航空機は地上に待機させることなく第4四半期が終わりました。航空機リース事業部門の業績はすばらしいものでした。

稼働率については、87%と高レベルを維持しています。ペンスキー、鉄道車両、トレーラーはすべてアップし、稼働率も高くなっています。これは、維持されています。稼働率の見通しは良好です。第1四半期を考えると、稼働率は横ばいか、若干上向きになるものと思います。そのため、ポートフォリオはきわめて堅調です。

第4四半期の収益計算書の説明に入る前に、第4四半期の弊社の業績のハイライトを示したいと思います。このチャートがそれです。このチャートの左側に、第4四半期の営業成績とすばらしい業績が示されています。何枚かのチャートを使って、これらの事業の詳細をご説明します。

しかし、ポートフォリオ全般にわたってすばらしい成果を挙げていることは確かです。インフラストラクチャーは利益が16%アップ、インダストリアルは25%アップ、コマーシャル・ファイナンスは13%アップ、コンシューマー・ファイナンスは21%アップ、ヘルスケアは16%アップ、NBCユニバーサルは7%のダウンでした。したがって、これらの事業の総セグメント利益であり、私たちが今検討している業績と現在の勢いは、15%のアップでした。

右側の説明に写ります。左側で説明した営業実績の15%から始めます。左の列の棒グラフです。第4四半期で比較しなければならない会社項目に限定します。

最初のボックスは、2つの非反復項目によって推進されています。FAS13の修正があり、それにより2億5千万ドルの収益が昨年の第4四半期に追加されました。これはもちろん、今年度の第4四半期で繰り返されることはないため、この点を比較します。また、昨年の第4四半期に売却を行っていますが、これは継続しておらず、繰り返しもありませんでした。主に、当時のGECIS、現在のジェンパクトの売却です。

これら2つの項目、つまり、反復しない売却と反復しないFAS133の修正が、第4四半期のVの約10ポイントを占めています。また、この四半期では、非現金年金の高騰もありました。年金は約1億ドルの振れとなっています。さらに同期については、インダストリアルの税率が上がりました。上昇率は約2ポイントで、もう一方のボックスの主要因となっています。これが、同期の1%のダウンの原因です。

このページでは、弊社の事業セグメントの業績は堅調で15%増加しており、連結結果の0.55ドルは見通しに沿ったものであることを、再度、強調したいと思います。また、本来重要なのは、この直近の四半期は、業績が保険の動向によって営業実績が影響を受けたということです。つまり、2004年度の第4四半期は、インシュアランス・ソリューションズの税引き後の損失が2億ドルだったということです。この損失は、比較すると今年度は好都合に働くと考えますが、廃止事業といたしました。

第4四半期の動向みると、インシュアランス・ソリューションズとFAS133の修正が原因でした。反復しない項目について調整するだけで、事業による比較可能な収益は二桁、11%を超える増加でした。

ここで、損益計算書を見てみましょう。ジェフが申しましたとおり、売上は407億ドルで、3%のアップです。お話ししましたFAS133項目、FX、第4四半期の日数を調整しますと、内部成長は8%を超える増加です。後で営業実績の一部をお見せいたします。

インダストリアルの売上高は255億ドルで、4%のアップでした。ファイナンシャル・サービスの売上は151億ドルで、これも前のページで私がお説明した項目と比較できるものです。比較ベースでは、約5%のアップになります。

純益は58億ドルで、EPSは予想どおりの0.55ドル。これは2%のアップでした。第4四半期に買い戻しを行った結果、株は約1%のダウンでした。この買い戻しによりEPSが2%アップしています。また、皆様もご存知のように弊社のキャッシュフローは素晴らしい状態になっています。この詳細についてお話しします。ただし、通年では216億ドルで、そのうち138億ドルがインダストリアルです。CFOAは14%のアップでした。

右上には、第4四半期の収益動向が示されています。昨年度は57億ドルで、お話しした事業による堅調な結果は、この後すぐにご説明いたしますが、前期に発生した一部の一時的項目によって相殺され、その後、年金などは税金を含めて増加し、今年度は58億ドルとなっています。

5つか6つの事業が第4四半期において、予測どおり二桁アップしました。

事業についてお話しする前に、継続事業と廃止事業の詳細のページについてご説明したいと思います。一番上の行は継続事業で、ご説明したように、第4四半期と通年が示されており、それぞれ0.55ドルと1.72ドルでした。

第4四半期の廃止事業として2つの項目があります。ジェンワースとインシュアランス・ソリューションズです。皆さんは、どちらもこの四半期で廃止されると予測されていたことと思います。ジェンワースは、第4四半期は2億ドルの黒字となり、インシュアランス・ソリューションズは税引き後の損失が29億でした。これについてはスイス・リインシュアランスの処分の発表時に公表しています。

下の総純益をご覧ください。GEが前進するために、継続事業ベースでご報告したうえで、財務諸表を完全にするために非継続事業の合計もお伝えします。

このページの一番下をご覧ください。税率についてご説明し、非継続事業による影響についても再度、お話しします。ボックスの一番上の行はGEで、GECSは除外されています。これは商用案件用率と呼びます。年初から3四半期については、約25%です。通年では23%でした。

第4四半期では、米国雇用創出法に基づき、資本の本国送金を行いました。約12億ドルのキャッシュが第4四半期に本国に送金され、これによって年初から第3四半期の率に比してプラスとなりました。ただし、先ほど述べましたように、インダストリアル第4四半期の税率については、第4四半期には前年比2%のアップでした。

中央には、GEキャピタルサービスの継続事業が示されています。保険の影響を除外すれば、3四半期を通して、ファイナンシャル・サービスの税率は約12%、通年は11%で終了しました。これは、予想通りの数字です。

最後に、当期利益については、非継続事業の結果を含め、つまり、損失を含める形でジェンワースとインシュアランス・ソリューションを残すことになります。ファイナンシャル・サービスは年初から第3四半期で19%、通年で17%と予測どおりでした。基本的に、保険は弊社の税率に影響を与えています。保険の課税が高ければ高いほど、GECSの税率が下がります。

通年の継続事業全体は1.72ドルで、10%の増加でした。この点について重点を置いて報告を続けます。

話は、第4四半期および通年のキャッシュフローに変わります。素晴らしい業績を収めた年でした。216億ドルという数字、GECSの配当、78億ドルという数字をご覧ください。GECSの定期配当を通年で40%まで回復させました。ジェンワースの二次的要素の一部が超過資本となり、それにより弊社は配当をジェンワースの約39億ドル分アップさせることができ、78億ドルとなりました。

インダストリアルは、14%のアップで138億ドルでした。インダストリアル部門のキャッシュ・パフォーマンスは優れていました。

右側にキャッシュ・ワークが示されています。これをご説明します。今年度は、32億ドルのキャッシュでスタートしました。チャートの左側に示したように、CFOAは216億ドルです。配当の支払いに94億ドル、株の買い戻しは50億ドルでした。約28億ドルはプラントと設備です。処分後、39億ドルの買収を行いました。借方／その他の変化は1.7でした。

第4四半期は借方102億ドルで終了し、基本的に前年度と比べ、負債総額は横ばいでした。すばらしいキャッシュ・パフォーマンスであり、それにより弊社は140億ドルを超えるキャッシュを配当と買い戻しで株主にお返しできました。

これで2005年度については終わりにしたいと思います。第4四半期の結果と2006年度の第1四半期に移る前に、まとめさせていただきます。全体的に素晴らしい年度でした。企業全体として、売上は11%のアップです。収益は2桁の12%の増加でした。キャッシュフローも42%のアップと申し分ありません。会社の総資本収益率は16%で、今年度は18%を超えたいと思っています。

6つの事業が2桁の収益の伸びを見せてくれました。偉大なVであり、チームによる素晴らしい業績です。このポートフォリオ全体での内部成長は8%であり、成長を重視している弊社をもつても、これは驚異的な結果です。キャッシュフローもすばらしい。

第4四半期の営業実績が掲載されているページに戻り、数字をご覧になってください。これは2006年度に入るにあたっての堅調な勢いに対する弊社の自信であり、証拠です。弊社が向かっている方向について、手ごたえを感じています。

2006年度についてお話ししましょう。これが第1四半期の事業予測です。6つの事業の売上とセグメント利益の見通しをご説明します。インフラストラクチャーでは、引き続き堅調な業績を期待しています。インダストリアルでも、素晴らしい業績が続くでしょう。コマーシャルおよびコンシューマー・ファイナンスは、すばらしい四半期となるよう準備を整えています。ヘルスケアにも大変な勢いがあり、国際的にも幅広いかなりの力があります。NBCユニバーサルは、この第4四半期の結果とほぼ同じと考えております。

第1四半期のポートフォリオをまとめたものが右側にありますが、売上は5~10%アップの370~380億ドルとみています。収益は11~17%アップの39~41億ドルと予測されています。また、EPSは15~21%アップの0.38~0.40ドルです。

2006年度の税率につきましては、弊社の予測では、インダストリアル税率が約24~26%、ファイナンシャル・サービスの税率が17~19%とみています。したがって、第1四半期の見通しは0.38~0.40ドルといったところです。

ここで、6つの事業についてご説明し、第4四半期と第1四半期を検討してみましょう。

インフラストラクチャーから始めます。インフラストラクチャーは、四半期としても年度としても申し分がありませんでした。この四半期の売上は11%アップの120億ドルでした。驚異的な成長です。セグメント利益は16%アップの24億ドルで、通年では14%の増加です。

航空部門は堅実さを維持しています。売上およびセグメント利益が左下に示されています。サービス受注は12%、CSA受注残高は23%のアップ。売上は、その好調な伸びにより5%アップでした。これは、商用エンジンの売上の21%の増加によるもので、軍用エンジンは4%減少しています。営業利益は6%の増加で、GE_{Enx}への高額のR&D支出によって価格と生産性が相殺されました。また、軍用スペアパーツの受注が遅れて届き、これが第1四半期にずれ込みました。

エネルギーは順調です。売上は14%アップ、営業利益は10%です。サービス受注は実に堅調で、16%の増加でした。案件受注残高も16%伸びています。四半期あたり、良好な受注数と言えます。この売上高は、風力事業の出荷が好調だったことによります。昨年度の出荷数は300ユニットでしたが、この四半期では900ユニットを超えています。サービス売上は13%の増加でした。営業利益は10%のアップで、売上の伸びには若干、及びませんでした。サービスの大幅な伸びは、水力部門での継続的な圧力により、ある程度相殺されています。

オイルおよびガスについては、すばらしい四半期でした。売上高は30%、営業利益は60%のアップでした。通年の収益も24%を超える増加でした。

トランスポーターションについても、素晴らしい年度であったと言えます。197台のEVO機関車が出荷され、先ほど述べましたように、ほぼ2年分の生産量にあたる大量の受注残高を抱えています。

ファイナンシャル・サービス関連も、健闘を続けています。

インフラストラクチャーを全体的に考慮して第1四半期を検討すると、設備納入およびサービスの両方の面で、航空事業は引き続き好調であると期待しています。

エネルギー部門は、ほぼ横ばいと考えます。第1四半期は競争が厳しくなり、台数では20%からのダウン、ガス・タービンについては今年度の34%から来期は約22%になるものと思います。前年度に生じた解約が反復することはありませんので、ほぼ横ばいになるでしょう。したがって、通年度では10~15%アップと順調です。

ファイナンシャル・サービス関連は、引き続き堅調でしょう。また、オイルとガス、トランスポーターションも手堅い四半期になると考えます。四半期全体のセグメント利益は、10~15%の増加となります。

コマーシャル・ファイナンスは、素晴らしい四半期であり、素晴らしい年度でした。売上高は報告ベースで52億ドル、これは、3%の減少です。カナディアンの小売事業の2件の処分を考慮すれば、3%の増加となります。セグメント利益は18%の増加と、堅調です。

すべての事業で取引高に手堅い伸びがありました。四半期のキャピタル・ソリューション事業の取引高は 15%の増加でした。多くの経済活動が計画されています。コーポレート・ファイナンシャル・サービスは 14%、不動産は 30%増加しました。多くの経済活動がこの取引高の好調な伸びを牽引しています。

四半期をみると、キャピタル・ソリューションズには好調な成長を支える中核事業があります。いくつかの損失要因の増加により収益が低下し、営業利益もわずか 1%の上昇に留まりました。通年では、14%の増加でした。すばらしい年度であり、2006 年の第 1 四半期については流動資産の伸びが四半期で 8%と、良好なポジションを確保しています。

不動産も全体的にすばらしい業績でした。四半期では 4%の増加のみでしたが、この第 4 四半期は前年同期と比べて資産の売却はかなり減りました。年間を通してみると、不動産チームは 14%の増加で、優れた業績でした。

ヘルスケアも、大幅な成長を遂げています。関連事業は 23%の増加です。コーポレート・ファイナンシャル・サービス事業は、第 4 四半期のこのセグメントで 50%以上アップしました。

したがって、ポートフォリオは良好です。無利益、延滞および償却は前年と比べ、すべて減少しています。2006 年度は、第一四半期からきわめて好調と予測しております。第 1 四半期は、キャピタル・ソリューションズは 10~15%、不動産は 20%以上、セグメント全体では約 15%の上昇となるはずです。

インダストリアルに移ります。この四半期はすばらしい結果を収めました。全体的に申し分のない業績です。売上は 84 億ドルで、1%の増加です。

ここでは、右上の最初のポイントが重要だと考えます。2005 年度の第 4 四半期は、2004 年度の第 4 四半期に比べると日数が 5 日減りました。これが約 6 ポイントの影響を主要事業に与えました。左下に示されているとおり、この四半期の日数が 5 日少ないことを考慮して、売上を修正しました。これは、通期業績予測について比較できるように、また将来、これがどのような意味を持つのかを示すためです。

セグメント利益は 25%上昇とすばらしい結果となりました。C&I の業績は堅調です。価格は資材の高騰よりも依然として高く、総コスト生産性の 4%を占めています。これは基本的に、最終的な収益まで影響しています。家電部門は引き続き、高級製品においてシェアを獲得しています。利益は二桁の増加と、好調です。また、インダストリアル部門とサブライ部門で、すばらしい業績をあげています。したがって C&I の業績は好調でした。

プラスチックについては、売上げが修正後で 4 ポイント上昇、利益は 1%の上昇でした。弊社は、価格と取引高の上昇とのトレードオフに対処しています。1 日の平均受注率は安定していました。米国は 5%、アジアは 11%の上昇で、欧州は引き続き軟調です。中国はすばらしく、順調に成長しています。ここでは、トレードオフがありました。粗利益率を確保するために、11 月に価格を引き上げました。第 4 四半期では取引高の約 2~3%の損失がみられましたが、価格は約 6%アップしました。この四半期の事業では、天然ガスがインフレーションに見舞われました。

しかし、第 1 四半期を見ますと、プラスチックの予測が 10%のアップとなっています。米国およびアジアで引き続き、堅調です。インフレーションを上回る価格を設定したいと思ひますし、弊社はそれを得意としています。取引高も増加するはずで、1 月の ADOR は年初から 11%アップしており、勢いがあることを感じています。

設備サービスも快調な四半期でした。ご覧のとおりの結果であり、引き続き順調な四半期になるものと予測しています。第 1 四半期のセグメント利益全体は、15~20%の増加となるでしょう。

NBCU に話を移します。NBCU にとっては厳しい第 4 四半期でしたが、多くの点で見通しは明るいものとなっています。売上は 3%のダウンで、ネットワーク、特にケーブルによる相殺が起因となっています。セグメント利益は 7%のダウン。同じような動きです。この減少は、一番下に示されています。この四半期については、プライムと各局の収益および TV 制作の傾向は第 3 四半期と同様でした。

第 4 四半期は映画もさらに厳しい状況となりましたが、全体としてはすばらしい年度でした。映画事業の営業利益は 90%以上の増加でした。第 4 四半期のネットワークと映画とを組み合わせると、エンターテインメント・ケーブルの 25%という順調な伸びによって部分的に相殺されていますが、情報ケーブルの改善、MSNBC の再編による利益、テレムンドの回復で、収益は 17%のアップとなりました。視聴率も高くなっています。

2006 年度については、NBC ユニバーサル収益の収益予測、30 億ドルに確信を持っています。プライムタイムの視聴率が上がりました。第 4 四半期終了時点での視聴率は 3.2%で、第 2 四半期の 2.3%、第 3 四半期の 1.9%から上昇しています。これは、すばらしい進歩です。木曜日の夜の戦略が効いています。「My Man Is Earl」と「The Office」により、好調な視聴率が続いています。明るいニュースが多くありました。

最後に、多くのことについてご報告したこのトピックを終える前に、「キング・コング」の制作は大変よかったと感じていることをお伝えします。この映画はすでに、世界各国で 5 億ドル以上の収益をあげています。順調に 6 億ドルに近づいており、弊社はこのプロジェクトで高収益をあげる位置にあります。このことについても、非常に満足しています。

NBC チームは、通年で約 30 億ドルを見込んでおり、第 1 四半期の予測は第 4 四半期と同様で、セグメント利益は約 10%のダウンと見えています。

では、最後の 2 つの事業についてまとめます。ヘルスケアは、すばらしい四半期でした。売上高は 45 億ドルで、5%の増加でした。内部収益の成長は、8%増加しました。セグメント利益は 16%のアップです。この事業全般にわたって、幅広く堅調です。技術事業の営業利益は 16%、バイオサイエンス事業の営業利益は 17%増加しました。この四半期の営業利益率は 2 ポイント上がって 22%と、利益幅は順調に伸びています。

DI 事業、超音波、ヘルスケア IT により、この四半期の内部成長には安定感がありました。さらに明るい話題として、受注件数を見ると設備受注が堅調で、約 7%増加しました。これは、弊社の新製品戦略と技術戦略によって推進されています。

VCT は、昨年は 55 ユニットでしたが、この四半期は 190 ユニットと、市場においてよく健闘しています。通年では 600 ユニットを超えました。昨年 70 ユニットだった高解像度 MR は、170 ユニットとなりました。超音波診断装置 Vividi は、昨年 55 ユニットでしたが、330 ユニットに伸びています。つまり、技術面の重視が奏功し、設備およびサービスの受注残高が 13%増加しました。バイオ・サイエンスと技術実現ノードとにより、第 1 四半期の予測はかなり明るいものとなっています。利益の伸びも順調です。

最後は、右側に示されているコンシューマー・ファイナンスについてです。コンシューマー・ファイナンスにとっても、すばらしい四半期でした。数字をご覧ください。売上は 14%、営業利益は 21%の上昇です。中核事業のすばらしい成長によって、これがなされています。資産は 11%増加しました。これには FX が加味されていません。この四半期はドル高による痛手を受けました。この部門では中核事業の伸びが 10%と堅調でした。

また、広範にわたって順調に拡大しています。南北アメリカで 30%、欧州で 35%、オーストラリアで 40%の拡大でした。信用の質も向上しています。前に述べましたとおり、第 3 四半期から 30 日の延滞が減少しました。[A&E]の割合としての償却も、前年比 0.10%下がりました。

ここで強調しておきたい点が 1 つございます。米国における第 4 四半期の破産の影響についてです。総償却は 1 億 5700 万ドルにのばりました。ただし、破産が予測される延滞勘定に応じて準備していた引当金を控除後、クライアントの第 4 四半期の分担金は税引き後で約 2500 万ドル、通年では約 5000 万ドルでした。予測どおりであり、なんとか切り抜けました。

コンシューマー事業の第 1 四半期の実績はきわめて好調です。資産の伸びと世界的な堅調さに支えられ、セグメント利益は約 15%の増加となるでしょう。

ジェフにお返しする前に、最後の 1 ページをご説明します。ポートフォリオをご覧になる場合、2005 年度のキャッシュの 216 億ドルという堅調さに支持された今日の弊社の強さに注目してください。2006 年度のキャッシュフローは約 240~250 億ドルになるものと推定しています。CFOA の伸びは 10~15%となるでしょう。

インダストリアルキャッシュは、収益に応じて増加するものと考えます。ファイナンシャル・サービスの配当は収益の 40%を維持し、それに加えて資本金を控除、つまり保険金からの余剰資本金を控除する予定です。

このため、弊社には非常に柔軟な財務力が備わっています。30 年間連続して配当を伸ばしており、14%アップの 1 株あたり 1 ドルになっています。昨年、50 億ドルの買い戻しを実施しましたが、当初は 30 億ドルの予定でした。2006 年度も、70~90 億ドルの買い戻しを行う予定で、この計画は 2008 年度いっぱいまで続き、250 億ドルまでを予定しています。したがって、2006 年度には約 1.5 ポイントの株の減額が予定されています。

弊社は成長するために投資しています。ファイナンシャル・サービスにも、インダストリアル部門にも、成長のための十分な資本があります。弊社は、きわめて戦略性の高い買収を続行し、ポートフォリオを構築していきます。柔軟な財務力は卓越しています。それでは、ジェフにお返しします。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼 CEO

ありがとう、キース。では、ここでまとめてみましょう。まず、売上についてです。弊社は常に最高の成功を収めるよう努めていることをお話ししてきました。そこで、それに対する弊社の考え方をご説明します。2006 年度の景気は、2005 年度とそう変わらないものと見ており、弊社は約 40 億ドルの伸びを示すと考えています。

弊社の市場の勢いを発展させることこそが重要です。将来に目を向けると、多くの受注残高と好調な勢いとが弊社の市場にあります。サービスと設備の受注残高についても、CSA 受注残高と設備受注残高にすばらしい勢いがあります。

成長の積み増しにより、30～50 億ドルに及ぶでしょう。そこに到達すると考えております。弊社は現在、イマジネーション・ブレイクスルーズから毎年生み出される積み増し成長分の約 30 億ドルを管理しています。ファイナンシャル・サービスとインダストリアル部門の買収については、売却は少なく、すべてを考慮すると、2006 年度も売上の積み増し成長は約 30～50 億ドルになると考えます。

この成長の要因がどこから来るのか、また、弊社の今年度の目標をどのように考えるかを、弊社はきちんと理解していると思います。これは実際のところ、成長を 1 つのプロセスにするという点について、過去 12 か月に限らず、3、4 年にわたって弊社がこれまで多くのことに集中的に取り組んできたことの成果でした。

2006 年度のファイナンシャルについてのまとめに移りましょう。この件については、売上が約 1,650 億ドルと 12 月にお話しました。純益は 202～211 億ドルの間で、10～15%の増加です。収益ベース、ESP ベースは 13～17%増加しています。キースが申しましたとおり、営業活動によるキャッシュフローは堅調です。

2006 年度への勢いと見通しは良好です。ファイナンシャル・サービスの観点からのポートフォリオの質は、申し分のない状態です。成長を核にしたイニシアティブも、現時点では弊社に有効に働いていると思います。繰り返す述べますが、保険の再編を済ませたことは、この場合も弊社にとって大変良いことでした。これにより、弊社の業績が抑えられ、皆さんが弊社に期待されているように、弊社には強靱さと勢いだけがあるように感じています。

弊社が示しているこの四半期の見通しに目を通すと、これが本当に反映されていることがお分かりになると思います。今年度はきわめて堅調なスタートを切り、通年ではおそらく、昨年度の第 4 四半期に考えていたよりも若干、上向きとなるかもしれません。通年の見通しは明るくなっています。

まとめますと、2005 年度の業績は好調で、第 4 四半期は弊社の予測どおりでした。2006 年度は一貫して持続性のある二桁の収益の伸びを示すとともに、ROTC も拡大するでしょう。良好なキャッシュフローにより、財務柔軟性が促進されます。レーティングは AAA と揺るぎないでしょう。偉大な文化と、すばらしいチームです。

そして、2006 年度については、弊社は 2006 年をすばらしい年度とすべく進んでいます。それでは、ビル、これで切り上げて、質問をお受けしましょう。

ビル・ケアリー - GE - コーポレート・インベスター・コミュニケーションズ、バイスプレ・プレジデント

ありがとう。了解しました。レイチェル、では、先に進みましょう。質疑応答に移ってください。

質疑応答

オペレータ

（オペレータの指示）シティーグループのジェフ・スプレーグさん、お願いします。

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー・シティグループ - アナリスト

例外的な日数について、もう少し時間をとってお話いただけないでしょうか。このことをフローの中で強調されていました。おそらくもっと深い意味があると思います。設備事業に波がある点については関連性が低いかもしれませんが、サービスやその他のものには影響したかかもしれないと思います。そこで、日数が違っていたら、この会計年度はどのようなになっていたか、さらに、この会議で強調されなかったほかのセグメントについてはどのような影響があったかをご説明ください。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

わかりました、ジェフ。年度の締め方というわけではありませんでした。基本的に弊社の会計カレンダーは4つの四半期に分かれており、2004年度の第4四半期は、2005年度の第4四半期よりも5日多くなっていました。つまり、調整に過ぎないといったところです。

調整はフローの中だと簡単に行えます。また、おそらくは、弊社のサービス事業に影響があったと考えます。その影響が何であったかの見当はついておりますが、それほど重大なものではありませんでした。また、ファイナンシャル・サービス部門にも影響がありました。したがって、その四半期全体では最も重要な事業の3%と言おうとしたと思いますが、内部的に考えると、このポートフォリオ全体の場合も8%になります。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー・シティグループ - アナリスト

インダストリアルとファイナンシャルの両方について、8ということかご説明ください。あるいは、この四半期において、この両者に若干の違いがあるのでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

非常に近いと思います。インダストリアルが8、ファイナンシャルが9となっています。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー・シティグループ - アナリスト

事業について1つだけ質問があります。エネルギーについてですが、水力発電を利幅の問題として強調なさっていました。以前は、風力発電について原価で苦心しているとのことでした。風力発電はそのギャップを縮めていると解釈すべきでしょうか。水力発電で進行していることについて、もう少し詳細をお聞かせください。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ご存知のとおり、水力発電については、商況は好調と感じています。受注残高は記録を更新し、価格も上昇しています。また、信じ難いほどの需要が依然としてあります。完売してしまい、注文に応じられない状況です。2006年度には風力発電と送電から、大幅な利益の改善があるものと期待しています。

水力発電では、チームが取り組んでいくつかの世界規模のプロジェクトによるコストの圧迫が続いています。徐々にその処理を進めています。これが2006年度に重大なことになるとは考えていません。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー・シティグループ - アナリスト

ただし、風力発電については、需要の大きさを考えれば、御社が契約を再開するかどうか疑問です。この先進的事业については、以前よりも良好な価格設定ができているのでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

2006 年 1 月 20 日午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 4 四半期収益コンファレンス・コール

ジェフ、ご存知のように、新しい価格は大幅に改善されています。弊社では継承した旧契約も引き受けましたが、それはすでに完了しています。風力については、今年度はかなりの収益をあげるでしょう。

ジェフ・スプレグ氏 - スミス・バーニー・シティグループ - アナリスト

それはすばらしい。ありがとう。

オペレータ

クレディ・スイス・ファースト・ボストンのニコル・パレントさん、お願いします。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

キース、税率について 1 つ質問したいのですが。本国への送金が税率を引き下げることになる理由について、もう少し説明してください。その後で、2006 年度の税率の見通しがどうかを補足説明になるのでしょうか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

はい。弊社は世界的な再投資による外国収益に注目しました。それらの大半が海外の生産的資産に絶えず恒常的に再投資されており、弊社の世界的な成長を支えています。弊社は海外に 12 億ドルの収益がありました。本国送金税率の 5% を超える税率が定められていたこれらの収益について、本国に送金できるのではと考えました。

そこで 12 億ドルの現金を戻し、米国雇用創出法に従ってたった 5% の税率を受け入れることで、利益を得ることができました。つまり、以前に規定された税率は 5% 以上でしたので、利益を得ることができるのです。

2006 年度については、2006 年度の見通しについて述べたチャートに示してあります。2006 年度は商用案件用率については約 24~26%、ファイナンス・サービスの税率については 17~19% と述べています。13 ページに示されています。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

わかりました。では、ヘルスケアについて補足質問させてください。報告収益成長率 5% と内部成長率 8% 間の食い違いは主に FX でしょうか。

また、30 億ドルの削減といった原因となる、12 月に通過した赤字削減法を踏まえて 2007 年度および 2008 年度を検討した場合、事業にはどのような影響があるとお考えでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼 CEO

ニコル、私が何を言うかはお分かりでしょうが、FX は 2 ポイント程度だと思います。また--

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ヘルスケアでも売却がありました。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼 CEO

売却は 1 ポイントです。これは、今年度に弊社が売却したインストゥルメンタリウムの一部、歯科用 X 線事業だと思います申し上げたいのは、提案されているヘルスケア法を見ると、この場合も外来患者に大きな重さが置かれています。ここ 2 年間、弊社にとっては実に低調であった事業です。

2006 年 1 月 20 日午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 4 四半期収益コンファレンス・コール

弊社の DI の受注残高、および世界各国の今後の状況を考えると、将来に向けて一桁代の真ん中あたりの収益となるのではないのでしょうか。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

わかりました。ありがとう。

オペレータ

UBS のデイブ・ブルースティン氏、お願いします。

デイブ・ブルースティン - UBS - アナリスト

GE キャピタルの税率の変動性を理解したいので、ご説明ください。また、収入を獲得する課税場所についてももう少し詳しくご説明ください。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

税率の変動性ですが、通年で 11% でした。これは適正な率です。年初から第 3 四半期までは 12% でした。第 4 四半期は大きな変動がありませんでした。この四半期には、コマーシャル・ファイナンスの仕組み取引から利益を得ました。それ以外は、ほとんどが米国の税率よりも低い海外の収益を継続的に再投資した結果です。

デイブ・ブルースティン - UBS - アナリスト

わかりました。GE キャピタルについては、第 4 四半期は 6.6% と計算していましたか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

7.1% です。

デイブ・ブルースティン - UBS - アナリスト

7.1 ですね。では、2006 年度の税率が高くなっている理由をご説明ください。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

2005 年度のことを思い出してください。いくつかのことがありました。米国雇用創出法は航空機リース事業では一時的な影響でしたが、それにより弊社は多大な益を得ました。それがキャピタルと GECIS の税率に影響しています。このようなことは 2006 年度には起こりません。

リース事業では引き続き現行の利益を得るだけです。一時的な繰り入れは反復されていません。また、欧州のコマーシャル・ファイナンスであった一時的な繰り入れも、今後はありません。これら 2 つが主要な動因かもしれません。

デイブ・ブルースティン - UBS - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

オペレータ

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

ゴールドマン・サックスのディーン・ドレーさん、お願いします。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

税についての質問はありません。お伺いしたいのは、GE が原子力エネルギーへの係わりを強めていく可能性と、そこには短期的、長期的にどんなビジネス・チャンスがあるのかです。それにより、SRI グループと衝突する可能性が生まれるのではないのでしょうか。それとも、それは問題ではありませんか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ディーン、私が何と言うかはお分かりになっていると思いますが、潜在的な取引についてはコメントできません。今日、事業を行っているわけですから。景気もよく、健全な事業です。既存の事業を行って、新しい技術に再投資しています。将来に何が起ころうと、今日、原子力事業で得た地位を弊社は好んでいます。これ以上、潜在的な取引についてはお話できません。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ありがとうございます。では、NBC についてお伺いします。もうすぐオリンピックですが、それについてです。経済状態はどうか、また、それが第1四半期にどう影響すると思うかについてのお考えをお聞かせ下さい。また、オリンピックに際して抱合せ販売のどんな相乗効果を期待していますか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ディーン、第1四半期に見込んでいるオリンピックの収益は、6億5000～7億5000ドルといったところです。これは、NBC 全体の内訳のことです。この最高の後援プログラムについてですが、トリノへの積み増し収益はごくわずかで、おそらく5,000万～1億ドルの範囲だったと思います。北京に至るまでに徐々に積み上げていき、5から10億あたりになると思います。トリノについては後で検討しますが、北京に向けて突き進んでいます。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ということは、利幅というよりも、むしろ収益機会ということでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

そのとおりです。つまり、売上ということです。ポータブル電源、モジュール建築、ポータブル・ヘルスケア用品、ポータブル・ユニットといったものがあります。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

また、全体として、すべての加盟系列局の関与やオリンピックがない年度に得る視聴料を含めて、これは弊社にとって、きわめて収益性の高いフランチャイズです。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

わかりました。ありがとう。

オペレータ

CIBC ワールド・マーケットのロバート・マッカーシーさん、お願いします。

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

ロバート・マッカーシー - CIBC ワールド・マーケット - アナリスト

欧州におけるプラスチック部門の脆弱性をお伺いできますか。影響を与えた特定のエンドマーケットはあるのでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ロブ、欧州の潜在的な経済成長はそれほど悪くない、と申し上げます。成長に邁進する中、また、プラスチック部門のインフレーションに対応している中で、利幅の維持に最大限、努めてきました。欧州では、第4四半期に若干の市場シェアを失った感があります。

欧州の潜在的な成長力は、自動車産業などについて、通年にわたって見てきたことと同じです。米国の事業は安定しています。今ここで私たちが検討しているものと同様で、5%です。中国は堅調さが続いています。

ロバート・マッカーシー - CIBC ワールド・マーケット - アナリスト

了解しました。では、営業日についてですが、この四半期では出荷日数が5日少なかったということで、これをどのように考えるべきでしょうか。実際に第1四半期への影響はありましたか。第1四半期の営業日数は多くなっていましたか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

そうです。

ロバート・マッカーシー - CIBC ワールド・マーケット - アナリスト

その四半期の内部成長におそらく影響したのではないかと思います。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

当然ながら、全体収益Vに影響しています。

ロバート・マッカーシー - CIBC ワールド・マーケット - アナリスト

（複数のスピーカー）第1四半期についてそれを考えています。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

それが、弊社がここで扱っている通年の数値を検討する理由であり、この点を考えるに当たって正しい方法だと思います。

ロバート・マッカーシー - CIBC ワールド・マーケット - アナリスト

お時間を頂き、ありがとうございました。

オペレータ

ベア・スターンズのピーター・ネスボルトさん、お願いします。

ピーター・ネスボルト - ベア・スターンズ - アナリスト

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

まず、資本の部についての簡単な質問です。キャプタル・ソリューションズと不動産については、取引高と収益成長との関連が若干欠けているように見えます。一部はFXと、おそらく資産売却によるとの説明でした。

第一に、どこの証券化市場に依存しているか、もう少し詳しく、具体的にお話いただけますか。第二に、この会計報告へはどの程度影響したのでしょうか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

実際には、2005年度第4四半期のコマーシャル・ファイナンスの証券化利収益は約290億ドルでした。これは、2004年度第4四半期から5億ドルのダウンです。したがって、この場合も、この四半期のこの収益は流動的です。収益は少なくなりましたが、事業での資産売却が減りました。ピーター、弊社は安定した状況にあると思います。

ピーター・ネスボルト - ベア・スターンズ - アナリスト

わかりました。

アン・ドゥイグナン - ベア・スターンズ - アナリスト

ありがとうございました。アン・ドゥイグナンから補足質問がございます。航空宇宙についての補足質問をさせていただきます。OEMアセンブリの勢いによる構成の変化はすでにありましたでしょうか。また、2006年度にはOEM製品へのシフトが若干多くなると思われますか。さらに、収益性の面で、どのような影響があるのでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

次年度は、OEMへのシフトが多くなるものと思います。弊社の収益も大幅に上がるものと予見しています。サービスの全体に占める割合が低下するため、営業収益率の拡大は小幅になるでしょう。生産性その他の項目により、一部の営業収益は依然として伸びるものと思います。これは、2006年度、2007年度についてであり、それ以降は製品売上が増えていくと考えています。

アン・ドゥイグナン - ベア・スターンズ - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

オペレータ

メルル・リンチのジョン・インチさん。

ジョン・インチ氏 - メルル・リンチ - アナリスト

キース、この四半期の4%のインダストリアル収益の伸びと、言及のあった8%についてですが、この2つを結ぶ要素は何でしょうか。たとえば、FXや売却等でしょうか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

会社全体についてですか。

ロバート・マッカーシー - CIBC ワールド・マーケット - アナリスト

インダストリアル企業についてです。

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

インダストリアル企業については、その件を担当していません。ジョン。後ほどお知らせいたします。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

おおざっぱで結構です。理解しようとしているだけなので。12月の中旬には、総収益は約420億ドル余りとお考えになっていたと思います。それよりも若干少なかったわけですが、FXがどれくらい関与したのかに興味があります。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

FXはインダストリアル側で約1ポイントです。価格と取引高のトレードオフは、インダストリアル・セグメントの大きな要素です。おそらく、はっきりとは分かりませんが、プラスチック部門では2億ドルくらいになるのではと思います。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ジョン、だいたい10億ドルくらいだと思います。FXは約3または4億です。これは正確ではありません—私は、会社全体でのことを述べています、ジョン。資産売却とファイナンシャル・サービスは、約4または5億ドル減っています。その残りがプラスチックです。つまり、年度を終了するにあたって、これらはおそらく、収益の伸びの前後での綱引きだったのではないかと思います。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

では、コマーシャル・ファイナンスについてだけ、再度お聞きします。すでにご説明されていたら、申し訳ありません。前年度の68億ドルから今年度の52億ドルへの下落の経緯をお聞かせください。この差は何かをお伺いしたいと思います。

また、この勘定科目と資産除去はどうなっているのでしょうか。1つのバケツから別のバケツに移動するようなものなのでしょうか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

おそらく、事業廃止によるものと思います。コマーシャル・ファイナンスからほかの保険を引き受けました。現在は法人化されています。ジョン。これが大きいと思います。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

確かに、その分に相当します。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

次年度は、[40 49]に対して[42 90]を実行します。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

わかりました。

オペレータ

バンク・オブ・アメリカ証券のドン・マクドゥーガルさん。

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券- アナリスト

ジョンの質問の補足です。自分で理解しているのか、確認したいので。12月に、御社は会社全体の収益を1,510億ドルに到達させるとのことでした。しかし、1,500億弱に終わっています。10億ドルの変更であり、FX、ファイナンシャル・サービスおよびプラスチックに言及しています。これは12月の最後の2週間に発生したのでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

違うと思います。年度末の時点では、FXが発生するかどうか、また、資産売却がどうかを正確に把握していませんでした。弊社にとって最も予測し難かったことは、ファイナンシャル・サービスの収益の行方でした。流動性のほとんどが、そこに発生すると言えるでしょう。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券- アナリスト

わかりました。では、第1四半期についてですが、ジェフ。あなたの見通しでは、前年度比15～21%ということでした。通常、我々がGEに見込んでいるよりも若干フロント・エンド寄りです。これは、自信の反映だと思いますが、その分の自信がどこから来ているのかをご説明ください。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

インフラストラクチャー部門およびサービスについてと、ファイナンシャル・サービスについての両方で、弊社には受注残高が存在しています。その受注残高を出荷していきます。これによって確信が生まれ、この年度をどう見ているかに対して非常に鮮明な視野が持てます。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券- アナリスト

ジェフ、最後の質問です。ドンです。あなたがお話になったプラスチックの価格と取引高のトレードオフを、最後に考慮したのですね。つまり、基本的に、取引高をあきらめたということでしょうか。なぜなら、価格決定力のほうがそこでは強いと考えたからではないですか。あるいは、2006年度にもっと何かがあるのでしょうか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

ドン、天然ガスとベンゼンは、当然ながら流動性を持つ事業だった、ということです。ベンゼンを扱ったことについて、とても満足しています。この年度の第4四半期に天然ガスが高騰しました。別途値上げをして、これをカバーしようとしていました。今後も対処していかなければならないと考えておりますが、弊社はこれを得意としています。

ドン・マクドゥーガル氏 - バンク・オブ・アメリカ証券- アナリスト

ありがとうございました。

オペレータ

モーガン・スタンレーのスコット・デーヴィスさん。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー- アナリスト

2006年の買収戦略についての最新情報が欲しいと思います。この質問をしようと思ったのは、御社のアーデン・リアリティの件で、1か月ほど前に発表がありました。若干大型、つまり、これまでに話してきたよりも幾分、値が張ったように思われます。最新情報と、多少のバックグラウンドをお聞かせください。まず、なぜアーデンだったのかと、特になぜこの価格だったのかという点です。また、2006年度には何を期待したらよろしいでしょうか。

2006 年 1 月 20 日午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 4 四半期収益コンファレンス・コール

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

スコット、まず、インダストリアル部門についてですが、高収益の戦略を立てている案件は、通年で 30～50 億ドルと今でも考えています。ファイナンシャル・サービスでは、世界的に成長したいと思います。

不動産では、資産は売却していますが、時とともに資産の追加も行っています。アーデンについては、南カリフォルニアの良い足場となり、その上に何かを築けると考えています。

この取引を見ると、弊社は所有物件の約 20%を、おおむね弊社が支払ったよりも高額で売却しています。弊社の価格は不動産業界の現状に対してそれほど悪いものではなく、非常に妥当であると思います。

コマーシャル・ファイナンスの資産は、今年度、8～10%伸ばしたいと思います。これが弊社の戦略です。米国内よりも米国外のほうが若干多くなるかもしれませんが、弊社にとってはその種の事業チャンスが国外にあると考えています。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー - アナリスト

わかりました。今までの件とは無関係の質問になりますが、2006 年度の 70～90 億ドルの株の買い戻しについてです。何を見込んで、実際に株式数を削減できるようになるのでしょうか。基本的に、どの程度のオプションや株式供与の希薄化を見込んでいますか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

スコット、キースの声をお聞き取りに出来ましたか。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー - アナリスト

聞き取れませんでした。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

すみません、スコット。ここでちょっと、ビルと話します。70～90 億ドルの買い戻しをする予定です。また、年度の平均で約 1.5 ポイントの株式数を減らします。

スコット・デーヴィス氏 - モーガン・スタンレー - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

オペレータ

AG エドワーズのトニー・ボーズさん。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

営業日が 5 日少なかったという点について明確にしたいことがあります。この四半期の受注面に關し、受注は 6%増加したとおっしゃいました。これは会社全体のことだと思います。少なかった 5 日分を調整すると、どのようなことが起こったのでしょうか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

その影響のための調整を含んでいます。つまり ADOR です。

2006年1月20日午前8時30分, GE 2005年度第4四半期収益コンファレンス・コール

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

わかりました。ADORですか。まさにフロー・ビジネスですね。第3四半期が5%で、第4四半期が3%と、この2つの四半期では受注が減少する傾向にあるようにみえます。イニシアティブはプラスチック部門の問題に限定されているのですか。あるいは、影響を与えるような何か別のことが進行しているのですか。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

トニー、お分かりになっていると思いますが、経済はきわめて好調でした。おそらく、その事業において、プラスチックは他の何らかの要因と比べてもおそらく同程度であったと思います。弊社が価格という領域で苦心しているように、事実上すべての事業で、特にコンシューマーやインダストリアルについて考えるときに、ある種の利益率というものがそれを反映します。

つまり、広い意味での経済は、深読みしすぎるということはありません。年度を通じて、きわめて一貫していたと思います。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

損失引当金について、質問します。[8.86]四半期となり、第3四半期以降、延滞がそれほど変化していないことから、若干少ないのではと思います。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

（技術上の問題）覚えていらっしゃるれば、前年比（技術上の問題）

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

トニー、聞こえますか。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

はい、おります。が、答えが聞き取れませんでした。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

わかりました。どうやら、こちらのマイクに問題があったようです。少しお待ちくださいますか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

申し訳ありません。ビルと再度、話をしていました。トニー、先ほど申し上げたのは、第4四半期の引当金を前年と比べて検討した場合、特定収益が USAir、ATA および ACA について 2億 6,000 万ドルありました。これは、前年の引当金との差すべてを計上した勘定以上の金額です。昨年、特定勘定に追加した巨額の準備金がありますので、今年度にそれをもう一度する必要はありませんでした。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

ということは、連続ベースではなく、前年比で検討したほうがよいということですね。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

2006 年 1 月 20 日午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 4 四半期収益コンファレンス・コール

実際には、通年で検討したほうがよいと思います。

トニー・ボーズ氏 - AG エドワーズ - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

後 1 つだけ質問を受け付けます。

オペレータ

クレディ・スイス・ファースト・ボストンのニコル・パレントさん。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

補足質問を 2 つだけさせてください。1 つは、エネルギー事業別の設備の売上とサービスについてです。受注数をお伺いしました。

2 つ目は、この四半期で期限の水力の売上と収益はどうだったかです。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

水力発電については、売上は 4 億 8,000 万ドルで 17% の増加です。営業利益は約 3,600 万ドルでした。エネルギー部門別の設備とサービスについてはビルのほうからご説明します。私はここに資料を持っていませんので。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン - アナリスト

わかりました。この四半期のタービンの出荷量はどうかご存知ですか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

タービンの出荷は---

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼 CEO

どうだったか、知っていますか。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

約 34 だったかな、ジョアンナ。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼 CEO

おそらく、そうだったと思います。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

少しお持ちください。ここに資料があると思います。ニコル、昨年度が 28 に対して 34 です。

2006 年 1 月 20 日午前 8 時 30 分, GE 2005 年度第 4 四半期収益コンファレンス・コール

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン- アナリスト

わかりました。ありがとうございました。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

2006 年度は約 130 に到達すると考えています。

キース・シェリン - GE - ファイナンス、シニア・バイス・プレジデント兼CFO

年間 130 です。

ジェフ・インメルト - GE - 会長兼CEO

第 1 四半期に 22 ほど、年間を通して徐々に増やしていきます。

ニコル・パレント氏 - クレディ・スイス・ファースト・ボストン- アナリスト

ありがとうございました。

ビル・ケアリー - GE - コーポレート・インベスター・コミュニケーションズ、バイスプレ・プレジデント

では、レイチェル。ご質問をありがとうございました。また本日はコンファレンス・コールにご参加頂き、ありがとうございました。音声に不具合がございまして、大変失礼いたしました。すべての質疑をお聞き取りになれていればよいのですが。トランススクリプトも本日中にお渡しいたします。

もし、まだご質問がございましたら、ジョアンナと私が本日は 1 日中待機しております。どうぞご遠慮なく、お電話ください。では、これで終了いたします。どうもありがとうございました。

オペレータ

みなさま、これでコンファレンス・コールを終了いたします。本日はご参加頂き、ありがとうございました。どうぞ、電話をお切りください。それでは良い 1 日をお過ごしください。

お断り

トムソン・フィナンシャルは、ウェブサイトに掲示した文書、内容などの情報を変更する権利を保有し、この変更についていずれの個人にも通知する義務はありません。

イベント議事録の対象であるコンファレンス・コールでは、企業は各種の事案について提案などの前向きな主張を行うことができます。この前向きの主張は現在の展望をベースとしますが、危険や不確実性が伴うこともあります。実際の成り行きは、さまざまな重要な要因やリスクに基づいて行ったり、展望についての言明とはかなり異なったものとなる場合があります。なお、これらの要因やリスクについては、各企業の最新の SEC ファイルで詳細を確認できます。各企業は、展望についての言明の基礎となる仮定事項の妥当性を明示し、またこれが妥当であると考えていることもありますが、このいずれかの仮定事項が不正確または不正だと判明することもあるので、展望についての言明で想定した結果については、その実現可能性についての保証はしません。

議事録に盛り込まれた情報は、該当企業の意見交換内容を文字で表示したものであります。正確な議事録とするよう努力していますが、コンファレンス・コールでの報告内容については、重大な間違い、脱落および不正確が発生する可能性があります。トムソン・フィナンシャルまたは該当企業は、当該ウェブサイトないしは議事録に基づいて行ったり投資決定などについて、一切責任を負いません。ユーザーにおかれましては、該当企業のコンファレンス・コール資料および SEC ファイルを吟味のうえ、投資などの決定を行うようお願いいたします。

© 2005, トムソン・ストリートイベントスが著作権を所有します。